

西部病院だより

いこいの森

特集

眼科



眼科スタッフ

解決に導くあなたの目の悩み

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

■ 受付時間

平日、第2・第4・第5土曜日
午前8時30分～午前11時 ※診療科によって一部異なります
(正面玄関の開扉時間は午前8時です)

■ 休診日

日曜日、国民の祝日、土曜日(第1・第3)、
10月の第2土曜日(開学記念日の休日)、
年末年始(12月29日～1月3日)

地域医療支援病院

日本医療機能評価機構認定病院

JCEP(卒後臨床研修評価機構)認定病院



〒241-0811 神奈川県横浜市旭区矢指町1197-1

電話 045-366-1111(代表)

FAX 045-366-1172

URL <https://seibu.marianna-u.ac.jp/>



2021年、聖マリアンナ医科大学は創立50周年を迎えます。





眼科 部長 荒川 明

水晶体や網膜の難治性疾患に対応可能です

巷間でのコロナ感染は、まだまだ予断を許さない状況ですが、当院での感染対策が十分に実施されていることが皆様に周知されてきたためか、一時、大きく落ち込んだ外来と入院の患者さまの人数は、かなり元の状況に戻ってきていると感じています。それに伴い3密(密集・密接・密閉)が気になる場面が、これから増えてくるかもしれません。眼科としても気を緩めずに感染対策を継続していこうと考えています。

さて、当科では眼科全般にわたる診療を行っております。白内障や緑内障をはじめ、角膜の病気や斜視・弱視などの患者さま、あるいは外傷の患者さまなどをご紹介をいただいております。結膜炎やドライアイなどは、開業の先生で対応可能な場合が多いためか、ご紹介いただく患者さまは少ない印象があります。今回は、そのような診療の中でも、当科の特徴といえる網膜疾患や一般的な白内障手術では治療のできない特殊な水晶体疾患への取り組みについてご紹介させていただきます。

網膜疾患と聞いて皆様は何を思い浮かべますか？網膜剥離の発症率は約1万人にひとりと言われ、比較的少ない疾患ですが、失明につながりかねない怖い病気としてご存知の方も多いのではないかと思えます。網膜剥離は診断がついたら、できるだけ早急に手術をしないと治癒しにくくなるばかりでなく、治癒後も視

力が下がったままになる場合があります。当科では網膜剥離の手術に対応できる医師が2名在籍していますので、柔軟な対応が可能となっています。また、早急な手術のためには、眼科の努力以外に、手術室や病棟も即座の対応を要求されますが、当院では関係する各部署も即座に対応してくれますので、常に早急な手術が可能な状況になっています。糖尿病が網膜に影響することをご存知の方も多いと思いますが、この網膜疾患も重症化すると失明する危険が出てきます。その手術は非常に緻密で慎重な手技を要求されますが、当科はこのような疾患も得意とし、他の大学病院からも紹介をいただいております。

目を強く打撲すると、水晶体と眼球壁をつなぐ支えが外れ、水晶体が眼内に落下する場合があります。また、打撲がなくても偽落屑症候群やMarfan症候群などの疾患では、水晶体がずれたり眼内に落下したりする場合があります。ずれていない場合でも、これらの疾患では白内障手術中の合併症の割合が高くなるということが知られています。眼内に落下した水晶体は通常の白内障手術のやり方では除去できません。また、白内障手術中に合併症が生じると、その先は通常の白内障手術の続行が困難になります。そのような場合、網膜の手術に使う機械と特殊な技術が必要となりますが、当科ではこのような手術にも対応できます。

水晶体落下

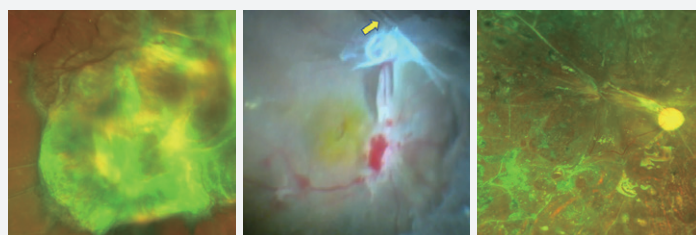


眼内に落下した水晶体

比重の大きい液体を注入し水晶体を瞳孔まで浮上させた

浮上させた状態で水晶体を吸引除去した

糖尿病網膜症



術前

膜処理

術後

厚い増殖膜が網膜を広く覆っている

眼内鉗子(矢印)で増殖膜をつかみ、眼底から膜をはがしている

増殖膜が除去され、網膜の状態がよくわかる